

2024年4月28日（日）／説教者：神谷武宏

説教：「プロテスタント（抗議者）」

聖書：マルコによる福音書9：38～41

弟子のヨハネはイエスに言う。「先生、お名前を使って悪霊を追い出している者を見ましたが、わたしたちに従わないので、やめさせようと思いました。」(38節)とあるが、これは何を言っているのか。

イエスの十二弟子たちとは別に、イエスを信じる別の団体があったが、イエスを信じつつも、あの弟子たちと共に働けないと思っていた人々がいたということ。弟子たちは、自分らに従わないその団体を異端者扱いし、その活動をやめさせようとした。しかしイエスは「やめさせてはならない」という。この「やめさせてはならない」という言葉は「妨げるな！」という強い口調の意味にもなる。

弟子たちは、自分たちとは別の行動を取る団体がイエスの名において悪霊に苦しむ人の傍らに立ち、何とか癒してあげたいとしている、その本質に目を注ぐことが出来ず、自分たちの団体に加わらないのは異端者として切ってしまう。自分たちが本物の団体であって、彼らは偽者とする。そういう本質を見極めきれない弟子たちに対して、イエスは「妨げるな」と叱るのであった。

その十二弟子たちは、イエスご自身の十字架、受難へと向かう苦しみ、緊張感などまったく意に介さず、自分たちの中で誰が一番偉いのかと議論し合う者たちであり、イエスはそのような弟子たちに半ば絶望を感じていたのではないか。そしてむしろ彼らとたもとを分かち、独自の活動をする他の団体・グループに親しみを感じておられたのではないかと思われる。

教会の歴史を見ると、しばしば既成の正統的な教会に反旗を翻す、抗議する者が現れる。1517年に宗教改革をしたマルティン・ルターが有名である。彼は当時の絶対的な権力を持つカトリック教会に対して反旗を翻す、抗議する者であった。抗議する者、異議を申し立てる者と言うことで英語でプロテスタントと呼ばれるようになったが、また私たちのバプテスト教会の誕生もまた一人の反骨の精神の持ち主が、抗議、異議を申し立てて、殉教を覚悟にこのバプテスト教会を誕生させている（1611年）。

教会は、この世に親しんでゆくうちに容易にその反骨精神を失う。教会は常にその反骨精神を捨てるか、取り戻すかの攻防を続けていく。いつの時代も教会は、この世的な権力意識や価値観に慣れ親しむあまりにイエスの反骨精神を忘れ去り、集団や社会から浮き上がることを嫌い、発言も行動も控えてしまう。そんな教会の姿、私たちの姿を、この時のイエスのように厳しく戒めるお方であることに気づかされて行きたい。(神谷)